

## 佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
請求実務演習Ⅲ Medical coding Ⅲ		1年	後期	水曜日・1、2限時
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
医療事務論Ⅱ、医事コンピュータⅠ、医療情報処理演習				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
医療事務論Ⅱ、医事コンピュータⅠ、医療情報処理演習				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
草野真範	講義棟1階 講師室	火曜・水曜（講義時間以外）	授業中に指示します	
授業の概要				
診療報酬（医療費）の仕組みや算定方法について、請求実務演習Ⅰで触れられなかった内容を中心に①診療報酬点数、②診療録（カルテ）、③診療報酬請求事務、④診療報酬明細書（レセプト）の4つの事項を主たる授業内容とし、制度の理解とその運用についての習得を図る。また、12月に受験する検定対策も行う。				
授業の到達目標				
①基本診療料と特掲診療料からなる診療報酬点数表の構造を理解することができるようにする。 ②診療録（カルテ）の記載事項を把握できるようにする。 ③前項①②を用いて、診療報酬（医療費）を算定できるようにする。 ④前項③を用いて、診療報酬明細書（レセプト）を作成できるようにする。				
授業の方法				
講義、演習を中心に、診療報酬請求事務の知識および実践力の習得を図る。				
学習の成果				
①患者にとって分かりづらい診療報酬制度を理解することで、多岐にわたる診療内容に応じた、医療事務従事者としての対応を身に付けることができる。 ②診療録（カルテ）の学習を通じて、医療用語を理解することができる。 ③医療事務従事者にとって、最も重要な診療報酬請求（レセプト作成）業務を習得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	・画像診断料の算定①			
第2回目	・画像診断料の算定②			
第3回目	・リハビリ、精神、放射線料の算定①			
第4回目	・手術、麻酔料の算定①			
第5回目	・手術、麻酔料の算定②			
第6回目	・手術、麻酔料の算定③			

第7回目	・医療秘書技能検定試験 対策		
第8回目	・入院料等の算定①		
第9回目	・入院料等の算定②		
第10回目	・医療事務技能審査試験（メディカルクラーク）対策①		
第11回目	・医療事務技能審査試験（メディカルクラーク）対策②		
第12回目	・医療事務技能審査試験（メディカルクラーク）対策③		
第13回目	・診療報酬明細書作成演習①		
第14回目	・診療報酬明細書作成演習②		
第15回目	・まとめ ・期末試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	14%		評価の観点と基準は以下の通り。 準備、積極性、集中力、協調性を総合的に評価する
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験	50%		評価の観点と基準は以下の通り。（pt=ポイント） S=90-100/A=80-89/B=70-79/C=60-69/D=59-0 ※評価基準への置き換えは、取得点数×0.5でpt換算し、50pt満点
発表内容（態度含む）			
その他	36%		授業中の求める提出物（6回）を評価する。評価の観点と基準は以下の通り。 90点以上=6pt/80点以上=5pt/70点以上=4pt/60点以上=3pt/60点未満=2pt/未提出=0pt
教科書と参考図書			
「医療事務者のための単元別演習ノート2012-13」（株式会社メドス 草野真範著）、「医療事務講座テキスト2、3、4」「医療事務講座スタディブック2」「技能審査問題集」（ニチイ）、「医療秘書検定実問題集3級②」（土屋出版 医療秘書教育全国協議会試験委員会編）、その他：授業担当者より適宜指示または資料を配布する			
履修上の心得・ルール			
最終的な成績は、次の基準に基づく（S=90-100/A=80-89/B=70-79/C=60-69/D=59-0） その他は「授業への参加態度」に準ずる 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物の持ち込み禁止。			